

2022 年度 IT 講習会に関する報告

大平 哲史[†], 中村 修也[†], 渡邊 夢良己[†], 丸山 広[†]

抄録 本報告は、青山学院大学における新入生の必修科目である情報スキル I の単位を修得するために履修する必要がある IT 講習会について、その概要を述べると共に 2022 年度の履修状況の提示および考察を行い、今後の方向性について言及する。

キーワード : IT 講習会, 情報スキル I

1. はじめに

IT 講習会は、本学全学部の新入生に対して必修科目として位置付けられている情報スキル I 科目における単位修得のために履修する必要がある、情報メディアセンターが主体となって運営する講習会である[1]。情報スキル I 科目は、青山スタンダードの「情報の技能関連科目」におけるコア科目であり、IT 講習会の運営においては、青山スタンダード教育機構とも密接に連携している。本科目の特徴は、一般的な座学形式の講義と異なり、履修者自身が学習計画を立て、それに基づいて IT 講習会スキルチェックシステムという CBT システムを活用しつつ段階を踏んで学び、問題点が生じればその都度さまざまな手段を用いて解決するという、いわゆる自学自習形式となっている点にある。自学自習は大学における基本的な学習形態であり、履修者は IT 講習会の履修を通して、日進月歩の情報技術 (IT) の変化に対応できる能力を身に付けることができ、さらに高校までの受動的な学習から、大学における能動的な学習へとスムーズな転換を行うことができる。

IT 講習会の具体的な学習内容は以下の 3 点である。

1. 情報モラル・ネチケット (入門編および実践編)
2. PC の基本操作
3. Office アプリケーションの使い方 (文書作成, 表計算, プレゼンテーション)

インターネットの利用は日常的なものとなっているが、その一方で利用上のモラルやマナー(ネチケット)は幅広く浸透しておらず、とりわけインターネット上のソーシャルメディアでの不用意な発言により、何らかのトラブルに巻き込まれたという経験を持つ学生が毎年のように発生している。さらに PC は社会生活に

における必須ツールとなっており、卒業後も様々な場面で PC に習熟していることが求められている。したがって、IT 講習会で課されるこうした内容を習得することにより、学生は大学を卒業した後に社会人として必要とされる IT の素養を身につけることができる。

そして履修者の自学自習をサポートするのが、教員ではなく IT 講習会補助員 (以下 IT-A) と呼ばれる学生アシスタントであることも IT 講習会の大きな特徴である。IT-A は IT 講習会を修了した学生の中で、書類選考および面接選考に合格後、研修を受けた特に優秀な者達であり、履修者が陥りやすい誤りについて指導するだけでなく、教えることを通じて IT-A 自身も成長できるという好循環が生まれている。

今年度は、昨年度と同じく感染防止対策を徹底したうえで、2019 年度までと同様に 1~5 時限 (水曜日のみ 4 時限) で IT 講習会を開講した。昨年度と同様、自宅でも学習できるように、IT 講習会の自学自習問題に関する解説動画を本学の LMS である CoursePower 上で提供し、大学外でも IT 講習会スキルチェックシステムを用いて自学自習可能な環境を整え、学生が学内の自学自習教室以外の場所でも学習できるようにすると共に、さまざまな理由により大学で IT 講習会を受講できない学生に対する対応をとった。

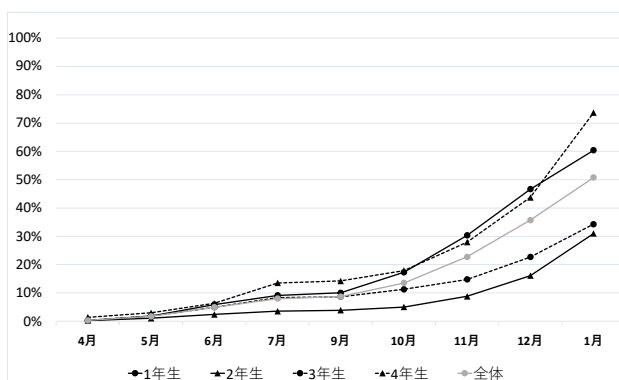
本報告書では、以下青山キャンパス・相模原キャンパスの 2022 年度 IT 講習会修了状況を報告し、考察を述べ、そして 2017 年度より運用開始した、IT-A が履修者から受けた質問を記録している Web ベースの質問記録システムに記録された質問内容について述べ、最後に今後の方向性について言及する。なお、IT 講習会における新型コロナウイルス感染防止対策については、昨年度の IT 講習会に関する報告[1]で詳細に述べており、今年度と昨年度との違いは、青山キャンパス

[†] 青山学院大学附置情報メディアセンター

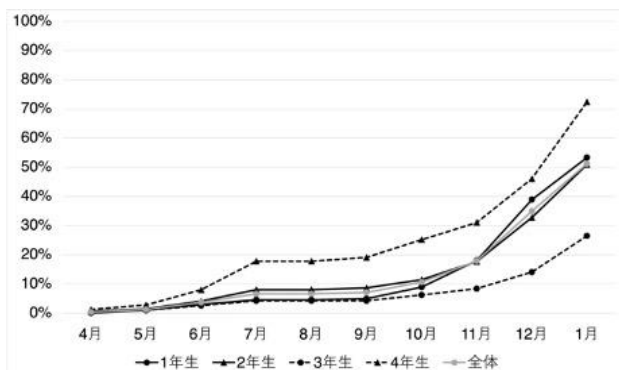
のIT講習会使用教室の収容人数を教室定員としたことのみであるため、今年度の報告からは割愛する。今年度は先述の通り2019年度までと同じく1～5時限での開講となったため、昨年度との比較に加えて、必要に応じて2019年度とも比較しながら述べる。

2. 青山キャンパス IT 講習会報告

青山キャンパスの学年別合格率推移を図1-1に示す。比較対象としている2021年度は、4月の後半から9月末までは緊急事態宣言下（6月中旬から7月初めはまん延防止等重点措置期間）でのIT講習会であった。



(a) 2022年度



(b) 2021年度

図1-1 青山キャンパス1～4年生修了率時系列推移

2022年度の履修者数は1年生が3542人、2年生が1569人、3年生が948人、4年生が569人、合計6628人であった。図1-1(a)に示す通り、最終的な合格率は、1年生については60.39%（昨年度53.33%）、2年生については30.98%（昨年度50.92%）、3年生については34.28%（昨年度26.49%）、4年生については72.93%（昨年度72.39%）であった。全体では50.77%の合格率であり、修了者数は3365名であった。

図1-1に示す通り、2021年度と比べて2022年度は、どの学年でも合格率が伸びておらず、特に1年生と2年生においては最終的な合格率が2021年度を下回ったことがわかった。また、コロナ禍以前の2019年度の修了者3225名に対し、2022年度は3365名とほぼ同数である。また、2022年度未修了学生は約3300人であり、来年度の新入生と2～4年生の履修者が同数であることから、新入生だけではなく、2～4年生の修了に向けたサポートがより一層必要であると考えられる。

続いて、2021年度と2022年度の青山キャンパス学科別最終合格率を図1-2に示す。

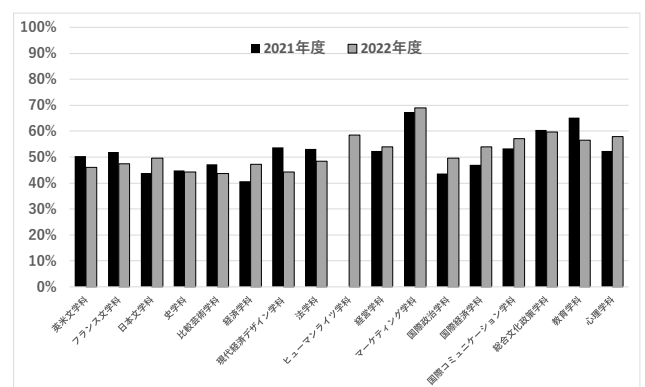


図1-2 2021年度と2022年度の青山キャンパス 学科別最終合格率

学科別にみると、合格率は概ね昨年並であることがわかる。2022年度はおおむね40～60%に満たない程度の合格率の中、マーケティング学科の合格率が68.95%と昨年同様に高いことがわかる。2021年度と比較すると、学科によって合格率に多少の変化があるものの際立った変化が見られるわけではない。なお、ヒューマンライツ学科は2022年度に開設された学科であるため2021年度のデータは存在しないが、マーケティング学科に次いで高い合格率となっていることがわかる。

続いて、次頁図1-3では各科目の合格者の時系列推移を示す。今年度は4月より受検を開始していることもあり、最初に受検する科目「情報モラル・ネチケット 入門編」の合格者が4月に最も多いことがわかる。最後に受検する科目である「総合試験」と「情報モラル・ネチケット 実践編」は11月より急激に合格者数が増えており、1月に最も合格者が多いことがわかる。

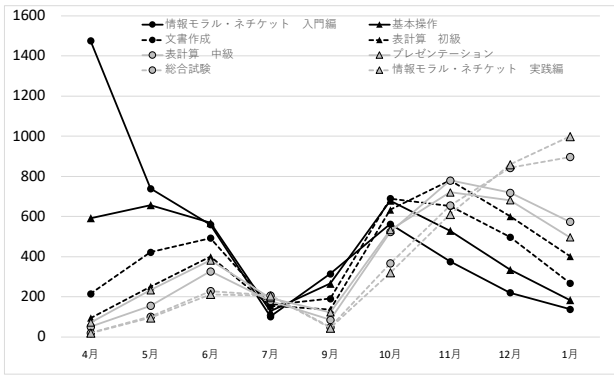
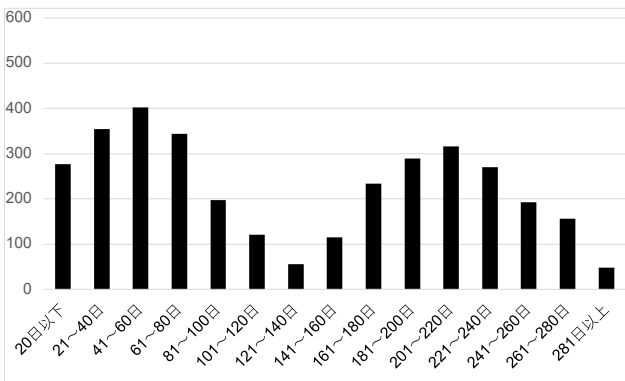
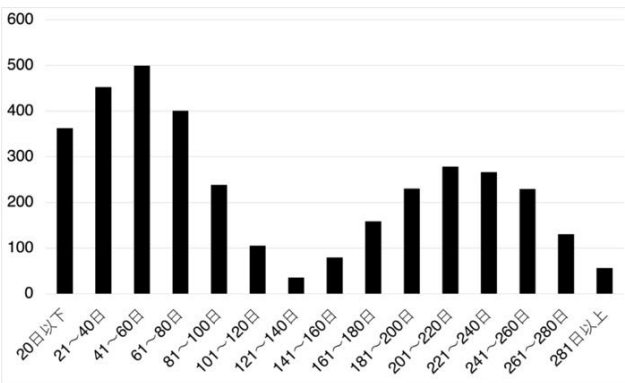


図 1-3 2022 年度の青山キャンパス各科目の合格者の時系列推移

続いて、図 1-4 に、受検開始から修了までに要した日数別人数を示す。



(a) 2022 年度



(b) 2021 年度

図 1-4 受検開始から修了までに要した日数別人数 (青山キャンパス)

図 1-4(a)に示す通り、人数では 41 日～60 日かけて終了する学生が多いことがわかる。120 日以下で修了する学生が全体の約 50.3%であり、おおよそ半数であることがわかった。このことから、一度着手してから約 4 ヶ月以内に修了する学生が多いことがわかった。2021 年度と比較すると、121 日以上と時間をかけて終

了する学生が増えており、若干ではあるが長期的に取り組む学生が増えていることがわかる。平均の修了までに要する日数は約 224 日ではあるが、これは長期休暇の間の日数もカウントしているため、前期に着手し後期に修了する場合は 180 日以上を要することが影響している。一方で、ある 1 日のうちに全ての受検を修了した学生は 14 名であり、時期に偏りは見られず、人数としても概ね例年通りであった。

最後に、図 1-5 に、Web ベースの質問記録システムを利用して取得した、IT-A が履修者から受けた質問数について、最も多かった質問の上位 10 項目を月別に累積したグラフで示す。登録された質問数は 9283 件であり、昨年度と比べるとその数は約 1.2 倍に増えている。

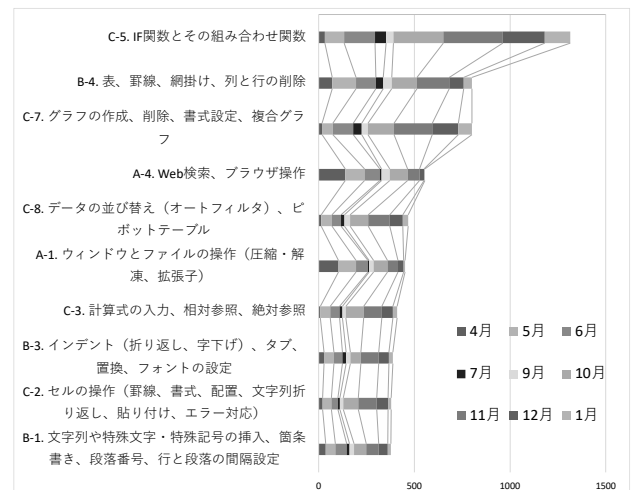


図 3-5 2022 年度青山キャンパス IT-A 質問数 上位 10 項目 (月別累積数)

上位 10 項目のうち 5 項目が表計算に関する質問であり、また、全体の質問数で見ても半分程度が表計算に関する質問であることから、表計算は特に履修生がつまずきやすい科目と考えられる。時期でみると、表計算の合格者が最も多い 10 月と 11 月に、表計算に関する質問が多いことが見て取れる。また受検開始の 4 月と 5 月には「Web 検索、ブラウザ操作」や「ウィンドウとファイル操作」など、基本的な操作やスキルチェック自体に関する質問が多かった。これらのことから、表計算に関するサポートを充実させることと、時期を元に、受検・合格者が多い科目を重点的に支援することが重要と考えられる。

3. 相模原キャンパス IT 講習会報告

まず、相模原キャンパスの学年別合格率推移を、図 3-1 から 3-4 に示す。また、相模原キャンパス学科別最終合格率を図 3-5 に示す。2022 年度の履修者数は 1 年生が 1446 名、2 年生が 292 名、3 年生が 289 名、4 年生が 43 名であった。最終的な合格率は、1 年生については 78.9% (昨年度 74.6%)、2 年生については 35.3% (昨年度 64.2%)、3 年生については 49.5% (昨年度 38.9%) であった。昨年度と比較すると、特に 2 年生の合格率に大きな差が見られる。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020 年度に修了を断念した学生が積極的に受講したが、今年度についても何らかの理由で昨年度は積極的に受講しなかった 2 年生が、もう少し受検して修了してほしいところであった。1 年生の合格率も昨年度よりは向上しているが、2019 年度と比較するとまだ 10%ほど低く、こちらについても少々残念な結果となった。一方で 4 年生について見ると、72.1% (昨年度 70%) とほぼ昨年度並みであった。なお、4 年生の学生には、地球社会共生学部に加えて、今年度から新たにコミュニティ人間科学部の学生が加わっている。情報メディアセンターの IT 講習会担当教員と、地球社会共生学部およびコミュニティ人間科学部の情報スキル I 科目担当教員が緊密に連携し、最終的には卒業を希望した学生は全員修了しているが、一方で今年度の修了を断念した学生を、来年度いかに修了させるかということが課題となる。

学科別の合格率についてみると、どの学科もほぼ昨年度並みであるが、理工学部では物理科学科と数理サイエンス学科の合格率が大きく向上していることが目につく。この 2 学科は昨年度に新設された学科であるが、昨年度の合格率は理工学部の中では低くなっていた。どちらの学科も今年度の方がより合格率が高いが、とりわけ数理サイエンス学科は、経営システム工学科に次いで 80%を超える高い合格率となっている。理工学部の各学科が 70%以上の合格率となる中で、2020 年度以前に入学した学生のみとなる物理・数理学科の合格率が低くなっている。2020 年度の入学者は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を顕著に受けているため、2023 年度については、他の学科の学生よりもより細かいケアが必要である。

理工学部以外の 3 学部について見ると、社会情報学部は昨年度より合格率が向上しており、この理由としては基本的に IT 講習会の修了が同学部のコミュニケ

ーション基礎科目の単位修得条件となっているためであるが、すでに同科目の単位を修得した 2020 年度の入学者も合格している。一方で残念なのが地球社会共生学部とコミュニティ人間科学部である。どちらの学部も、理工学部や社会情報学部と比較すると合格率が低い。地球社会共生学部の合格率については、その中でも昨年並みであるが、コミュニティ人間科学部の合格率については 10%以上の大幅な減少となっている。これらの学部については、留学や地域実習といった、大学外での学びが卒業要件となっているため、これまで以上に各学部の IT 講習会担当教員と連携して、早期の IT 講習会修了について促していく必要がある。

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を顕著に受けた 2021 年度と比較するとやや減少するものの、それでも例年の 1.5 倍程度にあたる 2,000 名ほどの学生が再び IT 講習会を受講することになる。特に理工学部と社会情報学部では情報スキル I 科目の単位修得が 4 年次進級要件になっており、後期の 12 月前半から自学自習教室およびスキルチェック教室に掲載している IT 講習会スケジュールに終了日を目立つように示していたが、とりわけ 1 年次に修了できなかった学生に対しては、今年度よりも細かいケアが必要となる。

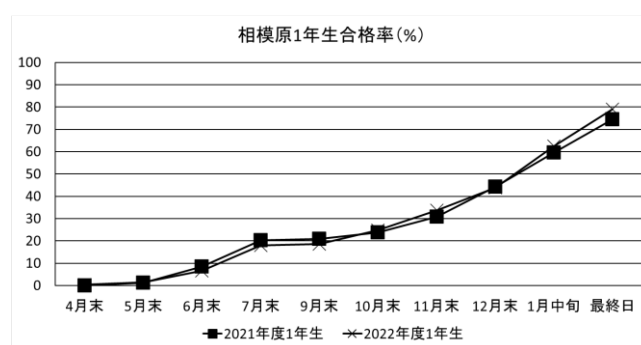


図 3-1 相模原キャンパス 1 年生合格率 (%) 時系列推移

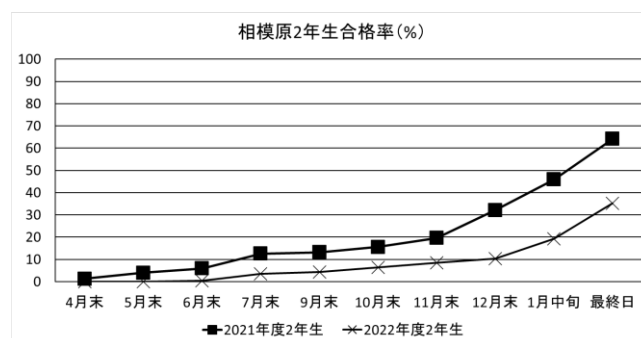


図 3-2 相模原キャンパス 2 年生合格率 (%) 時系列推移

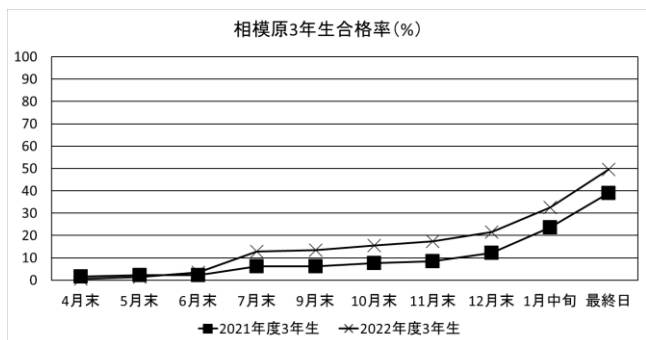


図 3-3 相模原キャンパス 3 年生合格率 (%) 時系列推移

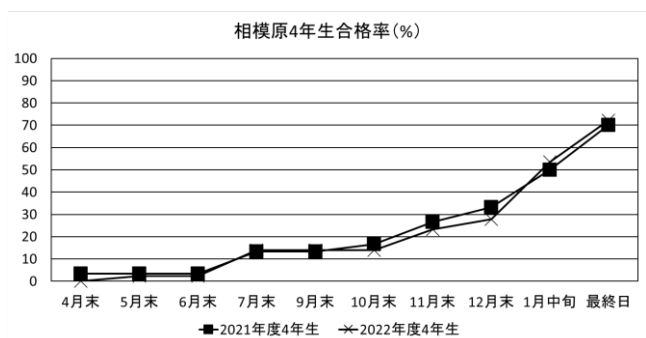


図 3-4 相模原キャンパス 4 年生合格率 (%) 時系列推移

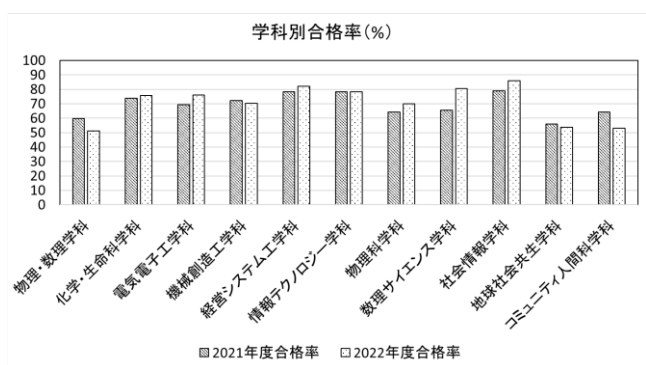


図 3-5 相模原キャンパス学科別最終合格率 (%)

図 3-6 に、受検開始者数と修了者数の時系列推移を示す。昨年度と同様、特に 9 月以降の修了者数に顕著な伸びが見られており、傾向は 2019 年度に近い。2019 年度以前から、1 年生が後期に入って大学生活に慣れてから IT 講習会の学習をスタートする傾向があり、それが大きく影響していると考えられる。2019 年度は最終的に受検開始したにもかかわらず終了できなかった学生は 125 名であったが、今年度は 256 名と大きく増えており、昨年度の 264 名とあまり変わらず、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた 2020 年度の 166 名よりも多い。全体として修了者が増えてはいるものの、このように途中で断念してしまう学生をいかに減らしていくかが来年度に向けた課題である。

に減らしていくかが来年度に向けた課題である。

図 3-7 に、受検開始から修了までに要した日数別人数を示す。今年度は、引き続きコロナ禍での IT 講習会となったことから、2019 年度以前と比較して、かなり短期間で集中的に学習して修了した学生が多い。2019 年度は、短期集中型の学生とそうではない学生とにはっきりと分かれており、ピークは 221 日～240 日および 241 日～260 日となっていた。一方、2022 年度は 2019 年度のように、修了までに 200 日以上を要する学生も少なからず存在しているものの、その数は 2021 年度と比較すると減少しており、ピークは 41 日～60 日および 61 日～80 日となっている。

コロナ禍において、IT 講習会の自学自習問題に関する解説動画と、学外でも IT 講習会スキルチェックシステムを用いた自学自習が可能なアプリを CoursePower 上で提供したことで、キャンパスに来ることなく学習を進めることができるようになったため、キャンパスではスキルチェックのみ受検したという学生も多い。短期集中型の学生が増えた要因としては、そのようなコロナ禍における IT 講習会の学習方法が定着してきたことが考えられ、解説動画や自学自習可能なアプリの提供は、キャンパスで受講する学生数の減少と、効果的な学びにつながっており、2023 年度についても同様の対応を行いたい。また、先に述べた通り、地球社会共生学部やコミュニティ人間科学部では、留学や地域実習といった、大学外での学びが卒業要件となっているが、そうした学部所属する学生にとっても、時間や場所を選ばずに学習できる解説動画や自学自習可能なアプリの提供はプラスになるものと考えられる。

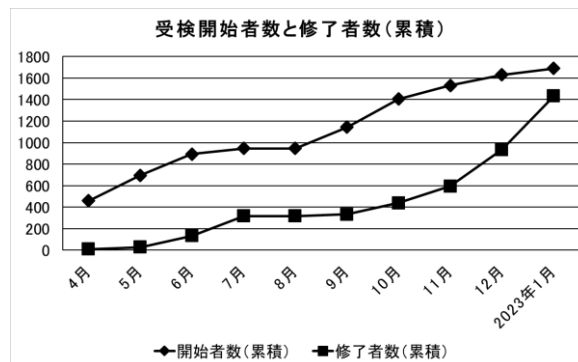


図 3-6 受検開始者数と修了者数の時系列推移 (相模原キャンパス)

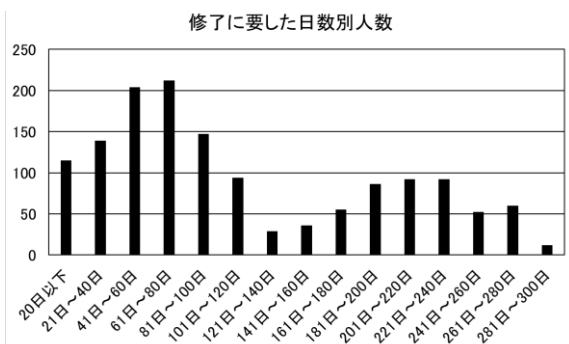


図 3-7 受検開始から修了までに要した日数別人数
(相模原キャンパス)

図 3-8, 3-9 に, Web ベースの質問記録システムを利用して取得した, IT-A が履修者から受けた質問数について, IT 講習会の科目別に前期・後期それぞれ時系列データとして示す. こちらも傾向は 2019 年度に近く, 前期については社会情報学部の 1 年生の学びの進度に合わせて, まず文書作成の質問数が増え, 続いて表計算の質問数が増えるという傾向が見られる. しかしながら, ピーク時の質問数について見ると, 昨年度前期と比較して半分程度にとどまっている. 後期については, 全体として表計算に関する質問が多く, 10 月初めに最初のピークがあり, さらに学期末の 1 月後半に最大のピークがある. 後期の質問数について昨年度と比較すると, 前期と同じくピーク時の値は昨年度の半分程度であり, 大幅に減少している. これは, 先に述べた, CoursePower 上で提供された解説動画や自学自習可能なアプリを活用した, コロナ禍における IT 講習会の学習方法が学生の間で定着してきたことが理由として考えられる. それは IT 講習会の自学自習というコンセプトにはマッチしているものの, IT-A という人材の育成という面では, その主たる業務である質問対応の機会が減少していることを意味するため, 昨年度も述べた点であるが, IT 講習会の枠組み全体としてプラスなのかマイナスなのか, 判断が難しいところである.

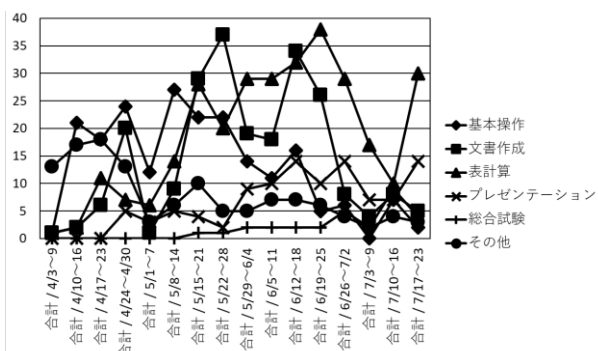


図 3-8 IT-A が履修者から受けた IT 講習会の科目別
質問数の時系列推移 (相模原キャンパス前期)

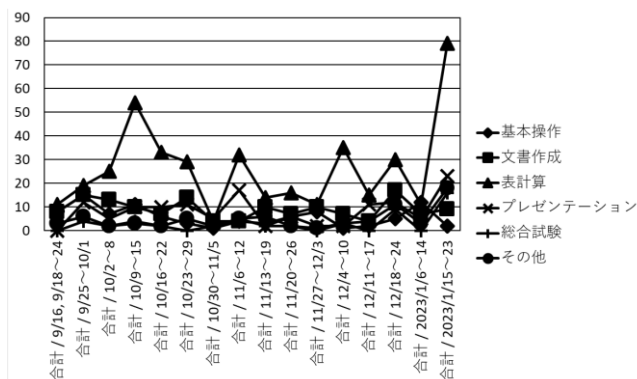


図 3-9 IT-A が履修者から受けた IT 講習会の科目別
質問数の時系列推移 (相模原キャンパス後期)

4. おわりに

IT 講習会は, 自学自習形式という特殊性ゆえに, 過年度生をはじめとして上手く馴染むことができない一部の学生を生んでいることも事実であるが, 2014~2021 年度と同様[1], 2022 年度はこうした学生に対し, 情報メディアセンターの IT 講習会担当教員により, CoursePower を利用して細やかなメンタリングを行っただけでなく, 教務課青山スタンダード担当および各学部の教務課と学生の履修状況を共有し, さまざまな理由により大学で IT 講習会を受講できない学生と再履修クラスの学生についてその進捗のケアを行った. また, とりわけ文学部, 地球社会共生学部, コミュニティ人間科学部の情報スキル I 科目担当教員と緊密に連携し, これらの学部の 4 年生の履修進捗状況に注意を払い, 無事単位修得へと導くことができた.

2023 年度についても, 教務課青山スタンダード担当および各学部の教務課, 各学部の情報スキル I 科目担当教員および教務主任の教員と必要に応じて緊密に連携し, 引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を徹底すると共に, 各学部からの提案にも真摯に耳を傾け, より合格率を向上させるよう努力していく所存である.

参考文献

- [1] 大平哲史, 中村修也, 甲斐晶子, 丸山広: “2021 年度 IT 講習会に関する報告”, 青山インフォメーション・サイエンス, Vol. 49, No. 1, pp.48-55, 2021.